



市民に好評の総合案内所  
職員が交代で対応しています

第二百六十四回定例市議会が、六月十三日から二十五日までの日程で開会され、浜田市長は冒頭、西日本トップの食品総合卸、旭食品株式の進出が決定したことを報告。

さらに、行政改革実施計画書の作成と今後この計画に基づき目標を踏まえて、点検・問題の把握に努め積極的な行政改革を行うと所信を述べ、引き続き当面の重要課題について報告しました。

(以下は市政報告のあらまし)

### ■企業誘致・行政改革

食品総合卸、旭食品株式が四国総合物流センター建設を目的として、領石に進出します。県勢および市勢浮揚のための骨格のひとつと認識し、県の協力や地元理解を得ながら積極的に取り組めます。

行政改革大綱の課題解決のための推進計画と方針を示した行政改革実施計画書を作成し、行政改革推進委員会に報告しました。各業務の課題を点検・把握し、具体的な推進計画を策定、行政改革を積極的かつ全面的に実施していきます。

### ■市民サービス

情報公開条例は公開したものが六件、非公開のものが二件、不受理が二件の実績です。総合案内は非常に利用者が多く、四月だけで千六百九十八人に利用されました。市役所を訪れる人だけでなく、職員にも具体的な行政内容を知ってもらうことで効果をもたらす、市民サービスの向上と職員研修の両方の観点から今後も継続します。

昼休み窓口業務の拡充は、市民の需要の多い一階窓口業務を中心に、実務部門の拡充を図り、市役所が身近になつたと好評を得ています。職員が市民に信頼され、親しまれる市役所づくりに取り組んでいます。

### ■福祉

代替地対策を重点的に取り組み、事業進捗率の向上を図っています。  
吾岡山文化の森公園整備は、地元推進会および関係者の協力を得ながら、全体事業計画の後半部分を推進しています。都市計画マスタープランは、市民の意見を聴き、総合計画、地方拠点都市・健康文化都市、住宅マスタープランなどと整合させ、若者や高齢者に魅力ある都市ビジョンとなるよう作業を進めています。

### ■都市計画

後免町市街地再開発事業は、事業化促進計画を基に都市計画決定を目指し、保留地処分先の確認や駐車場の施行方法などに全力を上げています。都市計画道路「高知百回線」

介護保険は、平成十二年(二〇〇〇年)からの制度導入に向けた介護法案が国会で審議中で、県内自治体も実施体制の検討を行うため各市町村長による市町村協議会が、福祉事務所ブロックごとに協議に入りました。障害者プラン作成は、平成七年に国が障害者プランを策定、地方自治体も具体的な施策目標を決め、対応することが求められます。県も「ひとにやさしハまらづくり条例」を制定し、平成十年四月に全面施行される予定

# 旭食品進出



# 領石に物流センター



で、市も目標を定め平成十年度中のプラン策定を計画しています。障害のある人の意見を反映しながら具体化に向けて取り組めます。

臨時福祉特別給付金は、四月より消費税率の引き上げ、地方消費税の導入に伴い、激減緩和の観点から、六十五歳以上の低所得者、老齢福祉年金や特別障害者手当などの受給者などに、臨時特別措置として支給されることになり、市民に対し円滑な支給を行うために市が支給事務を行います。

### ■保健

「病気になるない、病気にさせない」ためには、健康管理が大切。健康文化都市プラン

着々進む 吾岡山公園整備



ナーの提案によるウォーキングロードを小冊子「南国市ウォーキングマップ」としてまとめました。  
予防接種や成人病健診など各種検診による早期発見・早期治療と、手近にできる健康づくり、健康が医療費を抑制するとの認識で保健事業を展開していきます。

病原性大腸菌O-157などの食中毒を発生させないように関連機関と連携を保ち、予防に努めます。  
福祉医療費助成は、一歳以上二歳未満の児童の医療費助成を市単独事業で四月より実施し、喜ばれています。引き続き子育て支援として、年齢引き上げに努力します。

### ■生活環境

容器包装リサイクル法は、順調に推移しています。たどりサイクルしていなくなった市町村がリサイクルを始めた関係もあり、ビン類は資源が過剰気味で、その他のビン(黒、青)については、引き取ってやらなくなり片山で埋め立てています。現在荒却方式で

### ■国体

平成十四年(二〇〇二年)開催の国体に向け、市議会特別委員会を発足させ、県は各市町村の決議に基づき、国へ開催申請をすることで、国体の推進にあたり県民運動の重要性を理解し、その推進に積極的な協力をいただくよう、二千二人の「国体推進リーダー」を市町村長の推薦で、県国体準備委員会が委嘱します。

### ■教育

本市教育の根本精神と良き

伝統を受け継ぎながら新しい時代に主体的に対応していくため、教育行政方針の全面的な見直しを行い、特に「南国市らしい特色ある教育の推進」を基本方針として、開かれた学校教育づくりを中心とした教育改革を積極的に推進するための南国市地域教育推進協議会の設置作業は、地域教育指導主事を中心に準備が完了しました。国際化への対応として、中学校における英語教育の充実と、小・中学校における国際理解教育の進展を図るため導入する外国語指導助手(ALT)は、五月当初に配置者四人(男女各二人)アメリカが決定され、七月下旬の来日に向けて、受け入れの準備作業を進めています。ALTは、各種の研修を受けた後、二学期から各中学校へ配置します。

学校給食は、四月より中山間の地産産米を導入しました。生産者との心の通じた給食となり、給食実習校に指定した国府・稲生小学校は、独自の献立工夫も取り入れ、自校炊飯を実施しています。